平和について考える
～戦争体験や証言を継承するために～

問教育委員会事務局人権・同和教育係　☎0943-32-0093

戦後77回目の夏

人間の一生は有限です。新しい夏が来るたび、戦争体験者が少なくなります。実際に戦争を経験した「語り手」世代がいなくなる時代は、近い未来に訪れるということです。

総務省の人口推計によると、令和3年10月1日時点で、戦争を体験した世代の人は、全国民の13％まで減少してしまいました。しかし、戦争の悲惨さは風化させることなく、後世に伝えていかなければなりません。戦争を直接知らない世代の人間が、どのように戦争体験や証言を継承していけばよいのか、という大きな課題が存在します。

平和の火

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、人類史上初めて原子爆弾が投下されました。廃墟と化した広島の戦災の火が、今も八女市星野村の地で燃え続けていることはご存じですか？

「平和の火」と呼ばれるこの火は、原子爆弾の投下により焦土と化した広島の市街地から、星野村出身の山本達雄さんが身内の形見として持ち帰り、命名されたものです。

星野村から出征した山本さんは、広島で被爆しました。原爆投下直後の地獄を生き延びた山本さんは、広島市内で書店を営んでいた叔父の安否が気がかりでした。数えきれない負傷者と死体の中を探しまわりましたが、とうとう見つけることはできませんでした。ようやく戦争が終わり帰郷する日、山本さんは叔父が営んでいた書店跡の地下壕にくすぶる火を懐炉（かいろ）※に移し、形見として星野村へ持ち帰ることにしました。

この火は、多くの尊い命を奪った戦争に対する「恨みの火」、そして原爆犠牲者への「供養の火」として、23年もの間、家族の手によって守られてきました。山本さんは、この火を見るたびに当時の広島の惨状や原爆犠牲者の苦しみ、原爆や戦争に対する憤り、無念さを思い出し、その胸中は複雑で苦悩に満ちたものだったと語られています。

山本さん一家が守り続けてきたこの原爆の火は「平和を願う供養の火として永遠にともしつづけよう」と、1968年8月6日に星野村が引き継ぐことになりました。戦後50年を迎えた1995年3月、新たに整備された平和の広場に「平和の塔」が建立され、世界の恒久平和を願い、今も「平和の火」がともし続けられています。

※懐炉…当時は白金や鉄製のものが一般的で、懐中に入れ暖をとる用途に携帯された。

・絵本「原爆の火」（新日本出版社）山本さんの体験をもとに作られた絵本。学校での平和学習の教材としても活用されています。

平和を考える学習の取組

今年も広川町では、8月5日に中学校、9日に小学校で「平和」について考える学習を行う予定です。それぞれの学年に応じて戦争の悲惨さや平和の尊さについて学び、歴史や現実をしっかりと受け止めた上で、平和な未来を実現するためには何が重要かを考えます。そのためにも、相手の立場に立って考えることの大切さも学んでほしいと思います。

戦争を繰り返さないために

第二次世界大戦の悲惨な体験を踏まえ、日本国憲法は三大原則の一つに「平和主義」をうたっています。憲法の前文に「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し」と明文化し、二度と戦争をしないという強い意志を示しています。

終戦77年が経った今、戦争の記憶が風化してしまうことが危惧されています。二度と戦争を起こさないためには、戦争の体験や証言を伝えていくことが重要であり、日常の中で命の重さを考え、守ることが平和な世界をつくることにつながっていくのです。

八女市星野村にある「平和の塔」

広川町ボランティア活動センター

よかよかだより

実際にボランティア活動センターへ寄せられた相談内容から、
ボランティアについて一緒に学んでいくコーナーです。

登場人物

広川ふく子さん
ボランティア未経験。
2児の母。

ゆみさん
センター常勤スタッフ。
「笑顔で対応」がモットー。

・前回のあらすじ
自分の得意を生かしたボランティア活動にチャレンジしたいと、センターへ相談に来た広川ふく子さん。
身近なところに活動場所があることに気づき、「ボランティア活動の一歩」を踏み出しました。

「広川ふく子さん、ボランティアデビュー！」の巻

ふく子さん

地域の公民館で月に一回開催されている寄り合い活動では、ボランティアさんが料理をつくっているんです。以前、「一緒に料理をつくってくれる仲間を増やしたい」と言っていたので、私も何かできないかと相談してみたら、「今度、体験においでよ!」と誘ってもらいました!

先日お話をしていた地域の寄り合い活動ですね。その後、実際に活動をしている人とつながり、自身が活動に参加してみてどうでしたか?

センタースタッフ
ゆみさん

ふく子さん

子どもから高齢者まで、幅広い世代の人が参加していて、家族のような雰囲気でした。「料理おいしかったよ」「ありがとうね」という声をかけてもらい、とても嬉しかったです。

ふく子さんの得意な料理で、地域の人が笑顔になるのは素敵なことですね。自分の得意なことや好きなことを通して、地域や関わる人が幸せになる活動って素晴らしいと思います!

センタースタッフ
ゆみさん

ふく子さん

こんなに身近なところに、ボランティア活動の場所があるとは思っていませんでした。これからも、自分の得意なことを生かしながら、無理せず取り組んでいきたいと思っています。一人で悩まずに、ボランティア活動センターに相談に来てよかったです!

無理のない範囲で取り組むことは、ボランティア活動を長く続けていくために、とても大切なことですよね。これからも、ふく子さんのボランティア活動を応援しています!
また、お話を聞かせてください。

センタースタッフ
ゆみさん

次回（2022年10月号）から

「地域×ボランティア」編、スタート!

ボランティア活動センターは、ボランティアへの思いと情報が集まる場所です。一人ひとりの思いを大切にし、さまざまなボランティア活動を一緒に考え応援します。まずは当センターへお越しください。

ボランティア活動センター「よかよか」
はなやぎの里2階・平日8:30～17:15
☎ 0943-32-7073
FAX 0943-32-7074